

くすのき



樟蔭学園報 Vol.156

大阪樟蔭女子大学・大阪樟蔭女子大学短期大学部・樟蔭高等学校・樟蔭中学校・大阪樟蔭女子大学附属幼稚園

私たちの歴史
SHOIN点描



1950年代後半頃の実習風景

女子の大学進学率が高まり学生が増加

戦後の混乱収まらぬ1950年代前半は、女子の大学進学率がまだ低く、本学の入学者も定員の6割から7割程度でした。しかし、50年代後半には入学者が定員を超えるようになり、学内は学生の活気で満たされるようになりました。こうした動向に対応して、教員の増員を図るとともに、国文学科、英米文学科、食物学科、被服学科、児童学科のそれぞれに学会を設置。教職員、学生、卒業生を会員として研究発表や会員相互の親睦が図られました。さらに、自治会および学友会を組織し、クラブ活動など学生の自主的な活動がスタートしました。

1956 学科ごとの学会を組織



リニューアル工事を終えた記念館内部(1Fインテリアデザイン・ラボラトリー)

- 2008 新年のごあいさつ 1
- [90周年企画] 樟蔭の思い出 9

樟蔭学園は創立90周年を迎え、
新しい時代に向けてさらに力強い歩みを続けていきます。



- レポート ● オープンカレッジ「子どもの教育を考える。」徳永正直 3
- SHOIN LABO ● 「衣服の洗浄・染色に関する研究」小林政司 5
- こもれびの窓 ● フリーナウンサー阪口佳澄・宮西直美 7
- NEWS ● 教職員と学生等の活動報告 10
- INFORMATION ● 参加イベントのお知らせ 14
- we are Now ● 各校行事など 15
- SHOIN点描 ● 1956年学科ごとの学会を組織 19

新年のごあいさつ



学校法人 樟蔭学園
理事長 森 真太郎

新年あけましておめでとうございます。皆様健やかに新しい年をお迎えになられたこと存じます。

私たちの樟蔭学園は、昨年、創立90周年を迎えることができました。学園が90年に及ぶ歴史を刻んでくることができましたのも、大正・昭和・平成の時代の中で学園を支えてくださった保護者や卒業生、学生、生徒、園児、教職員などの学園関係者皆様のご理解とご協力によるものであります。創立者森平蔵が志した理想の女子教育へのご理解を賜り、いつの時代も変わらぬご支援をいただいておりますことに、心から感謝申し上げる次第でございます。

この春からは100周年に向けた新たなスタートを切ることになります。これまでの90年の歴史の中で培った伝統を大切にすると同時に、新しい時代に向けた学園作りにも取り組んでいかなければなりません。少子化による就学人口の低下や男女共学志向など、私立の女子学園が置かれている環境には厳しいものがあり、今までの学園運営をそのまま続けるだけでは、その流れを止めることは困難であると言えます。建学の精神にある女子教育の理想を追い求め、その特色に更なる磨きをかけることによって、社会の中でもより一層輝ける存在となり得るのではないかでしょうか。

100周年を目指すにあたり、学園では、学生・生徒・園児がこれまで以上に充実した学園生活を送れるように、キャンパス内の建物や施設の再整備についての計画を立てていきたいと考えております。また、今春には学園としての新たなシンボルマークを作成し、学園内外で統一して使用することによって、樟蔭学園の視覚的な認知度をより一層高めていくことも計画しております。

地域や社会、そして学園に集うすべての人々に愛される学園であり続けるために、これからも教職員一同、努力を重ねてまいります。皆様におかれましては、引き続き学園を温かく見守り続けていただきますようお願い申し上げますと共に、今後ともご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、本年が皆様にとりまして健康で幸多き一年となりますことを心からお祈り申し上げます。

更なる飛躍への第一歩となる年に！

大阪樟蔭女子大学
大阪樟蔭女子大学短期大学部 学長 森田 洋司



新年明けましておめでとうございます。

樟蔭学園は昨年に創立90周年を迎え、大学では「ライフプランニング学科」を開設、国文学科・食物栄養学科・被服学科のそれぞれに専攻を設置するなど、現代社会が求める人材を育成するための大きな改革を推し進めてまいりました。

また90周年記念事業の一環として、卒業生である作家・田辺聖子さんの偉業を称えた「田辺聖子文学館」を開館するとともに、伝統芸能や芸術の最高峰の演者を招聘した公開講座「日本文化塾（芸術と鑑賞）」を開講するなど、地域に開かれた大学の実現にも力を入れてきました。さらに、文部科学省の現代GP（現代的教育ニーズ取組支援プログラム）に2件が同時採択されたり、「社会人学び直しニーズ対応教育推進プログラム」にも選定されるなど、本学の取り組みが内外から高く評価された年でもありました。

そして本年は、これらの取り組みを更に充実させると共に、創立100周年に向う第一歩の年となります。そして、その施策如何が、今後の大阪樟蔭女子大学が更なる飛躍を実現できるかどうかの鍵を握っていると言っても過言ではないでしょう。伝統ある女子教育を大切にしながら、樟蔭の魅力を更に充実させる最初の一歩に相応しい一年にしたいと思います。

どうか本年が、皆様にとりましても素晴らしい一年になりますことをお祈り申し上げますとともに、本学への変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

新年を迎えて

大阪樟蔭女子大学附属幼稚園 園長 塩見 慎朗



あけましておめでとうございます。

幼稚園はいつも園児の明るい歓声と歌声に包まれ、元気に活動し、遊びまわる可愛い園児を見ると自然と笑顔になります。幼稚園に入園した頃は小さく頼りなかった幼児が、幼稚園での集団生活の中で、生きる力を身につけ、年々心身ともに大きく成長し、しっかりする姿には驚かされます。

ディルタイは「哲学者の最後の言葉は教育である」と申しましたが、哲学者でなくとも子どもの教育を気遣うのは当然であります。わが国でも教育の再生が叫ばれ、平成18年「教育基本法」、平成19年「学校教育法」の改正がなされ、幼稚園の目的に「幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして」との文言が加わり、生涯教育の基礎としての幼児教育が明示され、幼稚園は小学校との連携を考慮した保育が重要となっていました。

附属幼稚園におきましても、体力づくりや生きる力など根っ子を育てる教育に力を入れながらも、小学校との連携を念頭に置き、大学をはじめ、中学・高校のご協力を得ながら、見学や遊びを通しての体験学習により、知性や情操を養う機会を増やしたいと思っております。昨年11月、遠足としてのはじめての関屋キャンパス訪問は、大学の皆さんに温かく迎えられ、全園児にとって楽しい体験学習となりました。今後とも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

生徒の進路に応じた教育を

樟蔭高等学校 校長 森 真太郎
樟蔭中学校



近年、学校は保護者・生徒から選ばれる立場に置かれていますが、学校選択の理由は「安心して学べる学校」でありその内容は、「進路保障」と「生活指導の充実」であると思います。中学校・高等学校では、平成20年度より、6年前にスタートした外部大学進学体制をさらに充実させ、中学校では、従来の「特進」「総合」コースから「選抜特進」「特進」の新コースと完全6年一貫制を導入いたします。高校から入学してくる生徒のためには、「特進」「進学」コースを設置いたします。「選抜特進コース」は国公立大学を、「特進コース」は難関私立大学を、「進学コース」は中堅私立大学を目指します。また、本学園の大坂樟蔭女子大学へは、それぞれのコースから能力、適性に応じて進学できる体制を作っております。

このように、中学校・高等学校では、生徒の進路に応じたコースを設定し、学習レベルに合ったクラス編成やコース変更を行います。また、週6日制への復帰、休暇中の特別授業や補習により授業時間の増加を図り、学力の向上定着を目指します。

生活指導面でも家庭学習の習慣化等、基本的な生活習慣の習得を目指し、指導を行ってまいります。今後とも、皆様のご理解とご支援を、よろしくお願い申し上げます。

新年のご挨拶

樟蔭同窓会会长 綱野 康子



あけましておめでとうございます。

新春の門出を、ご家族お揃いで健やかにお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年は同窓会の活動に温かいご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございました。お陰を持ちまして事業活動も、役員皆様方のご尽力により、順調に進めさせていただけております。

とりわけ昨年は、樟蔭学園は創立90周年のおめでたい年を迎えられ、同窓会といしましては祝賀パーティーをホテルニューオータニ大阪において開催いたしました。

ご来賓の森理事長様はじめ、諸先生方、大高中PTA、樟友会の役員の皆様方のご臨席を賜り、盛大に執り行うことができました。

東京支部からも、先輩後輩が大勢参加していただき、高嶋ちさ子ハートフルコンサートと祝賀パーティーを進めさせていただき、540人の樟蔭ファミリーの皆様とともに、楽しいお祝いのひとときを無事、終わらせていただいたことを感謝いたしております。

今後は母校100周年に向かって、母校と卒業生の皆様方の絆をさらに深めていただきますように、同窓会の活動を通じてお役に立ちたいと思っております。どうぞご協力くださいますようお願い申し上げます。

結びに本年も樟蔭学園のますますの発展と、皆様がご健康で幸多い年でありますことをお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

徳永正直

1952年生まれ。京都大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得満期退学。教育学博士(京都大学)。2001年より大阪樟蔭女子大学の教員生活やドーカン国際教育研究所(DOCA)への留学などを経て、現在、大学の副学長職と人間科学部の部長職を兼務。教育哲学やドーカン教育学を専門分野としている。著書に「教育的タクト論—実践的教育学の鍵概念」、「道徳教育論—対話による対話への教育」(共著)、「時代と向き合う教育学」(共著)などがある。

過剰な介入が子どもたちの心に歪みを生じさせます。必要なのは他律を発達段階に応じて弱め、自律の心を育むことです。



レポート

大阪樟蔭女子大学●オープンカレッジ文化講座「子どもの教育を考える。」最終回
大阪樟蔭女子大学 教養教育 徳永正直教授 講演テーマ:「親子関係と教育関係」
2007年11月17日(土)開催



10月～11月にかけて、大学の人間科学部学術研究会と子ども研究所、香芝市教育委員会の連携により「子どもの教育を考える。」(全5回)というテーマでの講座を開催いたしました。今回はシリーズの最終回を担当された、徳永正直教授による「親子関係と教育関係」と題した講演の一部を紹介いたします。

親子関係のねじれが生み出す危険

親子関係にはいろいろと難しい面があり、子どものありのままの姿をいつも受け入れられれば良いのですが、なかなかそうはいきません。体罰が良くないことを分かっていても、親の思いに反することがあると、「子どもを教育しなくてはいけない」という意識が強くなりすぎ、ついいつい手ができることがあるでしょう。私自身も家庭では3人の男の子を持つ親なのですが、親子関係には色々と難しい場面があることを実感しています。

親子関係は原則的に血縁によって結ばれていて、その関係が永続性を持っていることを特徴とします。子どもは親を選べませんし、親も子どもを選ぶことはできません。親と子は一緒に生活し共に過ごす時間が長い訳であり、「教育」という観点で親子関係がねじれると、その歪みが大きくなることが多いです。特に、親が子どもの教育を過剰に意識しそうの場合に危険が多く潜んでおり、結果として児童虐待や家庭内暴力などに発展するケースが数多く見られます。

また、「子どもが自分の親を殺す」「大人しかった少年が突然凶暴な事件を起こす」といったショッキングな事件が過去に幾つか起きていましたが、これらの事件の背景をよく調べてみると、親が過剰なほどに教育熱心であったり、児童虐待が行われていたりするなど、親子関係のねじれが事件の引き金になったと思われるケースも報告されています。

父性原理が弱くなった日本

先日亡くなられたが、河合隼雄先生は、1980年代からの日本社会には「父性原理」が欠けていると指摘しています。「母性原理」が全てを包み込む力、ありのままを受け入れる力

であるのに対し、「父性原理」

は善悪を区別する力、やって良いこと悪いことを区別する力です。日本の社会では母性原理ばかりが強くなり、父性原理が欠如する傾向が強まっていると言っているのです。さらに、1994年の「子どもの権利条約」への批准により、日本においても子どもの権利を可能な限り認めていくという方針が明確にされ、学校現場では先生と生徒の関係がフレンドリーな関係へと変化し、一方では不合理な校則の見直しが進みました。同時に他方では、本来必要であるはずの校則や規則まで遵守させる指導が消極的になってしまったように思われます。このような背景のもとで、子ども中心主義で、子どもを理解することばかりが優先され過ぎる社会になってしまったのではないか。もちろん、子どもの権利を尊重することは大切なことですが、ときには教育という部分にアクセントを置かなければならぬ場面もあるはずです。本来は母性原理と父性原理のバランスが取れた教育こそが良い教育であるはずなのです。

間違った教育が歪みをもたらす

教育とは通常、パターナリズム(温情的介入主義)で行なわれます。「規則を守りなさい」「遊びたいのを我慢して勉強しなさい」といったように、子どもにとっては苦痛に感じることであっても、そうすることが子どもの将来のためになるという考え方です。この場合、親は子どものことを思って介入を続けますが、子どもの立場からすると介入を苦痛に感じる部分があり、そのバランスが大きく崩れたときに歪みが生じてきます。また、教育は子どもにマイナスとなる要素を徹底的に排除しようとします。子どもがやってはいけないことを徹底的に追求し、子どもにとって安全な場所ばかりを作ろうとします。実際には、子どもたちは色々ないたずらをしたり、冒險したりして成長していくのですが、大人たちはそのような要素を全て排除し、大人が考える理

想的な教育環境の中に入れておけば子どもは健全に育つだろうという誤解を持っています。現実には、むしろそのような環境の中で育った子どもたちに歪みが生じてきているのではないかでしょうか。

教育とは人間の仕付け系である

イスの思想家アリストテレスは「教育や儀の美名の下に子どもを虐待してはならない」と主張し、「教育」そのものに否定的な立場をとっています。しかし、アリストテレスのように「教育」を全面的に否定することは危険でしょう。また、子どもの権利条約にも影響を与えた思想家コルチャックは「子どもはようやく人間になるのではない、子どもはすでに人間なのだ」と説いています。しかし一方では、教育の重要性を説く多くの人はカントの「人間は教育によって初めて人間になる」という言葉を引用しています。私が思うには、人間には仕付け系の役割を担う教育が絶対に必要です。仕付け系というのは、洋服を作るときに形を整える系ですが、洋服が完成したときにそれを付けたまま着る人はいません。仕付け系は形を整える役割をしているものの、最後にはずっと抜いてやる系です。そこが大切なところであり、大人が子どもを教育するときには、この教育という名の仕付け系を、やがては抜いてやるべきものであることを意識することが重要なのです。

教育とは、子どもを最終的に独立させ、自立させ、本当の意味での自由を獲得させることです。そのためには、他律(外から規制を与えて従わせるやり方)の力を徐々に緩めていく、形が整ってきたらすっと仕付け系を抜いてやり、子どもが自分の行動に責任を持ち、良心に従つて行動できるように支えていく教育が大切なのではないでしょうか。

(この文章は徳永正直先生の講演を法人本部企画広報室がまとめたものです)

これからの予定

KOSAKA

第6回樟蔭ファッションセミナー
「モダンなチャイナドレスの魅力ー「近代」上海の「伝統」とファッション」
講 師:謝 豪氏(シャレイ)(文化人類学・放送大学講師)
日 時:1月26日(土)14:00～16:00(開場13:30)
会 場:小阪キャンパス／受講料:無料／お申し込み:必要／締め切り:1月24日(木)必着
お申し込み方法:電話、FAXまたはメールでお申し込みください。
お申し込み先:樟蔭ファッションセミナー事務局
〒577-8550 東大阪市菱屋西4-2-26 大阪樟蔭女子大学・被服学科内
TEL/FAX 06-6723-8227 E-Mail:fashionseminar@osaka-shoin.ac.jp

SEKIYA

第3回歴史文化講座
国文学科歴史文化専攻開設記念「近世の在郷町—関東と関西—」
講 師:長谷川 伸三氏(国文学科教授)
日 時:2月9日(土)14:00～16:00(開場13:30)
会 場:小阪キャンパス／受講料:無料／お申し込み:必要／締め切り:2月4日(月)必着
お申し込み方法:ハガキまたはFAXで住所・氏名(ふりがな)電話番号と「近世の講座参加希望」の旨を記入お申し込みください。
お申し込み先:大阪樟蔭女子大学学芸学部 日本文化史学科事務センター
〒577-8550 東大阪市菱屋西4-2-26 TEL 06-6723-8163 FAX 06-6723-8348

DAIYOKU

大学院人間栄養学専攻公開講演会
「医薬品—栄養素の相互作用」
講 師:細谷 憲政氏(東京大学名誉教授)
日 時:2月23日(土)14:00～15:30
会 場:小阪キャンパス／受講料:無料／お申し込み:必要／締め切り:2月19日(火)
お申し込み方法:ハガキまたはFAXに住所・氏名(ふりがな)・電話番号・講座名をご記入の上、お申し込みください。
お申し込み先:〒577-8550 東大阪市菱屋西4-2-26 大阪樟蔭女子大学 学術振興課
TEL 06-6723-8237 FAX 06-6723-8348

SEKIYA

第10回レクチャーコンサート
「胡弓の現在と可能性」
出 演:原 一男氏、木場 大輔氏(邦楽の胡弓奏者)
日 時:2月2日(土)14:00～15:30
会 場:関屋キャンパス／受講料:無料／お申し込み:必要 ※子ども同伴可／締め切り:1月30日(水)
お申し込み方法:ハガキ、FAXまたはメールでお申し込みください。
なお、参加証等はお送りしませんので直接お越しください。ただし、希望者多数の場合、後からお申し込みの方にはやむをえずお断りのご連絡をすることがあります。
お申し込み先:〒639-0298 奈良県香芝市関屋958
大阪樟蔭女子大学人間科学部 児童学科研究事務室
TEL 0745-71-3159 FAX 0745-71-3149 E-Mail:s-gakujyutsu@osaka-shoin.ac.jp

SEKIYA

第7回心の相談コロキアム
「心理検査で何がわかるか」
—当センターにおける「発達検査モニター」の報告と「自分探し」を体験してみませんか?—
講 師:夏目 誠氏(心理学科教授)／辻 弘美氏(心理学科教授)／引野 明子氏(相談員)
日 時:1月26日(土)13:30～16:30
形 式:体験&講演、質疑応答etc.の形態
定 員:100名(申し込み先着順)
会 場:関屋キャンパス／受講料:無料／お申し込み:必要／締め切り:1月23日(水)
スケジュール:夏目 誠／自分探しエゴグラムを通じて(60分)
辻 弘美／発達—この不思議なること(50分)
子どものコミュニケーション能力と言葉の発達について
引野 明子／当センターにおける「発達検査モニター」の報告(50分)

健やかな発達に向けて—"発達検査モニター"の取り組みをもとに
お申し込み方法:ハガキ、FAX、またはメールでお申し込みください。
住所・氏名(フリガナ)、コロキアム参加の旨を明記してください。
なお参加証等はお送りいたしませんので、当日会場へお越しください。

キッズルーム:有り(要申し込み:1月22日(火)締め切り)
申し込み時にお子様のお名前(フリガナ)・年齢・性別を記載してください。
お申し込み先:大阪樟蔭女子大学 カウンセリングセンター 〒639-0298 香芝市関屋958
TEL 0745-71-3150 FAX 0745-71-3140 E-Mail:kokoro@osaka-shoin.com

上記の講座はHPからもお申し込みいただけます。 <http://www.osaka-shoin.ac.jp>



大阪樟蔭女子大学 学芸学部被服学科教授

大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程で生活環境学を専攻。学術博士。

東海女子短期大学講師・光華女子短期大学講師・同助教授・大阪樟蔭女子大学助教授を経て2006年より本学学芸学部被服学科教授。現在、学科長を務める。

社団法人日本繊維製品消費科学会常任理事・学会誌編集委員会委員長・社団法人繊維評価技術協議会洗濯評価試験開発分科会委員などを務める。

「ファッションがわかる本」「衣生活 そのなぜに答える」

「ファッションカラーコーディネーションに関する研究—パーソナルコンピュータを用いた肌色のwarm-cool感の計測—」など著書・論文多数。

汚れを落とす“洗浄”と色を付ける“染色”。相反するように見えますが、両方の視点を持ってこそ見えてくるものがあります。――

私たちが毎日のように行なっている“洗濯”。スーパーでは様々な種類の洗剤が販売され、洗濯機も次々と新しいものが開発されています。私たちに最も身近である“衣服”を扱う行為でありながら、意外と知らないことが多いのではないでしょうか。被服学科の小林政司教授は、生活科学を研究の中心に据え、とりわけ洗浄・洗濯、染色、色彩などを専門的に研究されています。専門的視点から私たちの生活を見てみると、そこにある意外な事実に気付くことも……。被服整理学を入り口に、その道を極めた小林教授にお話をうかがいました。

普段何気なく行なっている“洗濯” そこには高い技術力が 集約されています

私の専門のひとつに「洗浄」がありますが、私たちの生活に密着しているのは「洗濯」という行為です。洗濯の方法は、洗濯板を使っての手作業の時代から、洗濯槽と脱水槽が別々になっていた二槽式洗濯機、洗濯から脱水まで自動化された一槽式洗濯機へと変化し、現在では“ドラム式”といわれる洗濯槽が横になったタイプの洗濯乾燥機も普及してきています。また、環境負荷低減の潮流により、使用する洗剤や水の量を減らそうとする努力なども見て取ることができます。

また洗剤も大きく進化しています。汚れを落とすのは、主に界面活性剤という成分ですが、従来の合成洗剤では石油から作られるのが普通でした。しかし、環境への配慮もあって、現在では植物成分由来の界面活性剤が多くなっています。また、洗剤の研究開発が進むことによって、その使用量を大きく減らすことができたのです。4kg入りや5kg入りの大きな箱で、1回の洗濯にコップ1杯の洗剤を使用していた時代を覚えておられる方も多いと思いますが、現在ではコンパクトなケースに収まり、使用量も付属のスプーン1杯程度で洗濯できるようになりました。植物成分が主流になったことと、洗剤の使用量を大幅に減らすことにつき成功したことにより、最近の合成洗剤は粉石



けんよりも環境に優しいとも言われています。しかし、洗剤の基本的な性能は、ほぼ極限のところまで研究されてきたと言えるでしょう。ですから、ここ最近は、風合いや肌触り、香りなど人間の感性に訴えかける高付加価値型の洗剤を開発することに研究の焦点が移ってきてています。

洗濯の方式や洗濯に対する考え方 国や地域によって大きく異なっている

洗濯機の形が変化していることは前述しましたが、ドラム式はヨーロッパで広く普及しているタイプで、槽底にある羽状の物が回転する

バルセータ式はいわば日本型といえます。バルセータ式は洗濯に多量の水を使用しますが、ドラム式は少量の水で洗うことが可能です。日本とヨーロッパで洗濯機の方式が異なるのは、水の豊かさや水質などが影響しています。日本の水資源は豊かで軟水が多いのに対して、ヨーロッパでは水が貴重であり硬水が多いのです。硬水は、カルシウムやマグネシウムなどのミネラルを多く含んでおり、それらが界面活性剤に影響を及ぼし、十分な洗浄力を発揮することができなくなります。ですので、洗浄力を向上させるために水を加熱するなどの工夫が必要になり、少量の水で洗濯できる方式

が発展したのです。

また、東南アジア諸国では、日本や欧米諸国と異なり、洗濯機の普及率が非常に低いです。これは、洗濯機を使うよりも、洗濯のために人を雇つたりお店に頼んだほうがリーズナブルであるという考え方方が主流を占めているからです。このように、風土や生活様式といった様々な要因によって、洗濯機の方式や洗濯に対する考え方方が異なってくるのです。

樟蔭から生まれる日本の スタンダードを目指して

汚れを落とすための重要な要素として“機械力”と呼ばれるものがあります。これは、洗濯のときに布地にかかる力のことで、洗浄力を高めるには必要な力ですが、一方では布地を傷める原因にもなります。できるだけ弱い機械力で、高い洗浄力を実現することが理想的なのです。そこで、この機械力を測定することが必要になるのですが、私の研究室では、(社)繊維評価技術協議会と共同で、カーボンブラック(スス)を使った新しい測定方法を研究開発しています。これは、布地にカーボンブラックをアクリル樹脂でプリントし、その色落ち具合により機械力を測定するもので、従来の方法よりも迅速かつ正確に測定すること



Electrolux社製Wascatorは、世界基準であるISOに対応する機械。関西の大学では唯一、ここ大阪樟蔭女子大学に設置されています。



小林研究室のゼミ生たち。学生たちとの研究の中から日本のスタンダードが生まれることが期待されます。

が可能になります。私たちは、この測定方法がJIS(日本工業規格)に採用されることを目指して研究を進めています。また、大阪樟蔭女子大学にはElectrolux社製の洗濯機が設置されています。これは、洗濯に関する様々な実験を行なうための世界標準となっている洗濯機ですが、非常に高価なもので、関西の大学では唯一、日本全体でもまだ10台程度しか導入されていないものです。こうした機械を活用した学生達との研究を通して、樟蔭から日本のスタンダード(標準値)を発信できればと考えています。

洗浄と染色は共通する部分が多く 両者の融合で生まれる技術もある

私の専門のもうひとつ、それは「染色」です。先の「洗浄」とは相反するものと考えられがちですが、繊維の表面を物理的・科学的に性質を調べるという点では共通しています。染色のなかでとくに重点を置いているのが、繊維と染料の相性です。染料には天然の物と合成の物がありますが、現在、天然の染料は伝統工芸などに使われる程度で、ほとんどが合成染料です。約150年くらい前に作られ、それから数十年であつていう間に広りました。

性能の差に明らかな違いがあったからです。一方、繊維は、現在でも綿が主流で、性能やコストの面で、綿よりも優れた合成繊維が開発されていないとも考えられます。洗浄と染色をともに研究することで、染料を落とさずに汚れだけを落とす

洗濯方法や洗剤について考える事ができますし、洗濯による色落ちがしにくい染料について考えていくこともできるでしょう。また、洗浄と染色の両方に生かせる技術を生み出すことができるかもしれません。現在、研究しているのは、泡沫(アワ)を使った染色、洗浄です。染色においては、染液を少量に抑えられるメリットがありますし、洗浄においては少量の水と洗剤で済ますことが可能になります。ただし、泡沫は液体以上にコントロールが難しく、均一に塗布・浸透させることに課題が残っており、それはこれからの研究課題となるでしょう。

また教育に関して言えば、本学の被服学科では、私が研究しているような繊維や素材といった視点だけでなく、衣服のデザインや制作に関する知識や技術の習得、衣服に関する歴史や文化への理解などの幅広い分野を網羅しており、被服の未来の姿を提案できる人材を養成できるような工夫を図っています。また、化粧文化専攻が加わったことにより、化粧を含めた“よそおい(装い・粧い)”に関するトータルな学びが実現し、全国で初となる“よそおい”に関する総合学科として成長しました。今後、樟蔭で学んだ学生達の活躍の場がさらに広がっていくことを期待しています。



阪口佳澄

昭和54年・大阪樟蔭女子大学英米文学科卒業
樟蔭高等学校と併せて7年間の樟蔭ライフを送った。
大学4回生在学時からプロとしてのキャリアをスタート。
以降、フリーANAウンサーとして、
アシスタント、リポーターなど在阪各局の
テレビ、ラジオを中心に第一線で活躍。
ABC（朝日放送）ラジオ「ヤングリクエスト」の
パーソナリティを8年担当し、
現在は、ABCラジオの『もうすぐ夜明けABC』の
金曜日（木曜深夜）パーソナリティをはじめ、
ABCラジオショッピング
KBS京都ラジオ「池田幾三の旅にいくぞ～！」などを
担当している。
夫はABCアナウンサーの和沙哲郎氏。
大学放送局（現在の放送部）の3年後輩となる
宮西さんの第一印象は“シャキシャキしていて細かい
気遣いができるすごくかわいい子”だそうだ。



宮西直美

昭和57年・大阪樟蔭女子大学国文学科卒業
新入生勧誘時に友人の付き添いで大学放送局を
たまたまぞいたのがきっかけで、この道へ。
入部当時、4回生だったのが阪口さんで、
“雲の上にいる遠い存在で、伝説の人”だった。
やがて阪口さんの後を追うように、
在学中にアシスタントとしての活動を始め、
かつて憧れの先輩阪口さんが務めた
“テレッカーギャル”としても活躍。
その後、平成11年1月よりMBSラジオ
『ありがとう浜村淳です』6代目アシスタントを
3年9ヶ月にわたり担当。
“宮西直美キャンベル”との呼び名を頂戴した。
現在は、ABCラジオの『もうすぐ夜明けABC』の
木曜日（木曜深夜）パーソナリティを務める。

同じ番組を曜日違いで担当する二人のフリーANAウンサー 樟蔭から続く二本の線が交差する奇遇

大学在学時からテレビ・ラジオでプロとして活動し、現在も第一線で活躍する阪口佳澄さんと宮西直美さん。二人の出会いの瞬間から、それが歩んできた道のり、同じ番組を担当する現在、そしてこれからのこと、“先輩・後輩”という関係とともに語っていただきました。



樟蔭の放送局を始点に フリーANAウンサーとして歩む二人

「新聞部に入部しようと思って部室に行ってみたら閉まっていたので、隣にあった放送局に友達と一緒に入部したのが始まりでした。それからは、短波放送のアナウンサーの方に『キミはアナウンサーに向いている』と言われ、アナウンサー養成所のテレビタレントセンター（TTC）

在に思えましたね。じつは私もアナウンサー志望ではありませんでした。テニス部の同好会でもあればと思っていたところ、付き添いで行った放送局に自分も名前を書いたんですよ。当時は部員数が少なく、入部即幹部という感じで、1回生ながら企画部長を任せられました。でも、今こうしているのは、阪口さんの存在が大きいですね」宮西さんも在学時にテレビ番組のアシスタント

として活動を始めた。まるで先輩の後を追いかけるように。

そんな共通項を持つ阪口さんと宮西さんは、現在もテレビやラジオを中心に、フリーとして活躍し、ABCラジオ『もうすぐ夜明けABC』パーソナリティをともに担当している。

人との出会いに恵まれたことを胸に 人を支えていく仕事を続けたい

「テレビやラジオの仕事は、変化に富んだもので、いい刺激になりますし、落ち込んだときに励みになるものです。ここまで続けられたのは、リスナーやスタッフの人たちに助けられた部分が大きいと思います。お便りに刺激を受けることはたくさんありますよ。何気なく口に出したひと言でも即座に反応があります。『らっきょうを漬けたことがない』と話せば丁寧な手書きのレシピやアドバイスが寄せられる。本当に有難いことです。おかげさまで“いかなごのくぎ煮”“ぬか漬け”も教わり、実際作りました。ラジオは想像の世界。恐ろしい程、語り手の人となりが浮き彫りにされます。だからこそ、綺麗な言葉を並べるのではなく自分の言葉、心に沿った言葉—“言霊（ことだま）”—を大切にしていきたいです」と表情豊かに語る宮西さん。

「私も出会いに恵まれたという思いがありますね。私を必要としてくださる、応援してくださる方、声を聞くのが楽しみと言ってくださるリスナーの声が支えになっています。そうした人たちに応えなければという使命感もあるかな。テレビは情報を伝え、ラジオはハートを伝えるものであり、家族・友達もあり、夢でもあると思います。今を懸命に生きている人を伝えることも大切ですが、かつてアドバイスされた『今幸せな人よりも少し幸せでない人の側に立つ』ということを心がけています。阪神・淡路大震災の当日も生放送でマイクに向かっていました。

そのとき『頑張って』という言葉の難しさを感

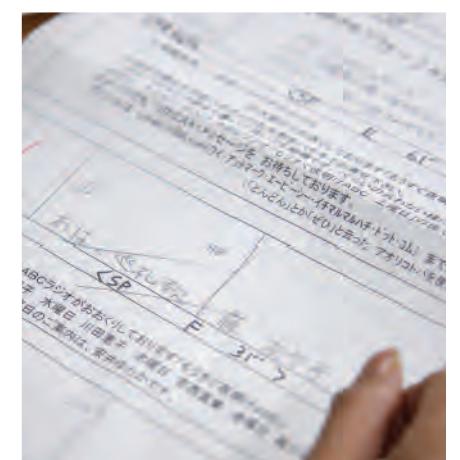


約2畳ほどのスペースの控え室。所狭しとCDが並ぶ。リスナーのお便りに目を通し、リクエスト曲をあらかじめ聴くなどの準備にもしっかりと時間をかける。



個性的な人、樟蔭が大好きな人と出会いました。出会えて良かったとしみじみ思います。人は誰でも壁にぶつかることがあるでしょう。そのときでも、すぐ諦めてしまわない。気になる道なら、背を向けて閉ざさない。急いで結果を求めるで、自分のペースで歩いていけば、また、道がひろがっていくと思います」

宮西さんの声には、これから歩んでくる人たちへの優しさがにじんでいました。このお二人の美声は、ABCラジオ（1008kHz）『もうすぐ夜明けABC』で聴くことができます。放送時間は深夜2時から。毎週木曜日（木曜深夜）は宮西さん、金曜日（木曜深夜）は阪口さんがそれぞれパーソナリティを務めています。



放送は時間との戦い。ラジオの向こう側にいる人のことを意識してマイクに向かう。リスナーからのお便りに励まされることも多い。

卒業生の方々のご活躍の様子をお知らせください。

さまざまな分野でご活躍されている卒業生の情報をお寄せいただき、みなさまのお力を借りて、この「こもれびの窓」で幅広い卒業生の姿をお伝えしていきたいと思います。身近でご活躍の卒業生の様子をぜひとも樟蔭学園法人本部企画広報室までお知らせくださいますよう、お願ひいたします。●TEL 06-6723-8152 ●FAX 06-6723-8263